

# わくわく たより

今年の夏は、あまり夏らしくはなかったように感じたので、残暑は来るかと覚悟していたら、残暑も拍子抜けしたように感じて、いつの間にか秋の気配です。

秋というと「食欲の秋」とか「読書の秋」と言いますが、私にはどちらも当てはまりません。近頃は小さい文字を見るのが嫌で、この数字、まともに読書はしていません。

食欲の方はというと、常日頃からスイーツを食べていたら、ぷくぷく体重が増えて、健康診断の数値も体重ばかりではなく、総合的に酷い結果とひってしまいました。

数年前までは、どんなに甘い物を食べても太らなかつたのに、もう最近では、食べれば食べた分だけ、体が吸収をして、どんどん丸くはっているようです。でも太るのも健康は証拠かとは思って、まだ、スイーツはやめられません。(売買、満山)

## ひとくちメモ

### 「なぜ紅葉するのか？」

なぜ紅葉するのかは諸説あり謎のようですが、落葉樹は冬になると葉を落とします。紅葉は樹木が葉を落とす前の準備（葉に送っていた栄養分を止める）のようです。紅葉は樹木の種類によって黄色くなるものと赤くなるものがあり、緑から黄色さらに赤になります。

○赤く紅葉する樹木・・・モミジ、カエデ、ハナミズキ、サクラ、ハゼノキ等々  
赤く色づくのは、アントシアニンの色素が作られるからです。夏の日差しを受け光合成をしていた葉が光合成を停止した段階でアントシアニンが急増し赤色の色素が目立つようになります。

○黄色く黄葉する樹木・・・イチョウ、クヌギ、クリ、プラタナス等々  
元々葉には緑色の色素（クロロフィル）と黄色いカロチノドがあります。光合成を停止することにより葉緑素が減少し分解され、黄色いカロチノドが目立つようになります。

★世界中でも日本の紅葉は紅葉する樹木の種類がかなり多いために、人々に感動を与える色彩を奏でてくれるようです。

## ひとくちメモ



## 『2017年基準地価』

国土交通省は2017年7月1日時点の都道府県地価を発表しました。全国の地価は26年連続で下落しておりますが、下落幅は縮小傾向となっております。住宅地の下落幅は縮小してありますが、商業地は10年振りに上昇に転じました。これは主要都市圏での需要が好調であることが要因と見られます。

県内においては、原発事故に伴う需要により住宅地と工業地は4年連続、商業地は3年連続で上昇となりましたが、いずれも上昇率は縮小しています。原発事故による被災者の需要がピークを過ぎたことで上昇率は縮小傾向にあります。

県内の住宅地上昇率が最も高かったのはいわき市で変動率は3.4%ですが、上昇幅は昨年より減少しました。また、県内の住宅地の地価上昇率の上位の地域は、これまでいわき市が独占していましたが、今回の調査では上位5地点のうち3地点がいわき市で2地点が福島市となりました。いわき市の基準地80地点のうち68地点で上昇、12地点で横ばいと下落した地点はありませんでした。県内基準値の中で上昇率が最高位だったのはいわき市小名浜字燈籠原ですが、今年は全国トップ10入りしたいわき市内の地点はありませんでした。

ちなみに1㎡あたりの県平均価格は、住宅地が23,400円（前年比400円増）、商業地が44,900円（前年比500円増）となりました。

県内の住宅地の最高価格は郡山市神明町の1㎡あたり85,000円、3位にいわき市平字作町3丁目で1㎡あたり78,500円が入り、商業地は上位5位までが全て郡山市となりました。



また、今回は原発事故による帰還困難区域や避難指示解除区域や解除間もない地域54市町村524地点で調査を実施、うち住宅地上昇は156地点（前年同数）横ばいが67地点（前年82）下落144地点（前年121）と下落地点が増加しています。変動率では檜葉町が3%、広野町が2.5%と住民帰還等の増加で取引事例の増大につながったようです。



## 【無料進呈中】知らないと損をする！

### 『誰も教えてくれない不動産の賢い購入法』

～不動産取引って、分からない事が多すぎませんか？～

この度、土地・中古住宅の購入における基本的な流れや、不動産取引のいろいろな事について一冊の本にまとめてみました。これを読めば不動産取引の基本的な流れが良くお分かり頂けると思います。この小冊子をご希望の方は小島北店までご連絡下さい。

一体幾らで買えるの？  
引越し 住宅ローン  
税金  
自己資金 資金計画



ニャンとなく お家探しはサービス1番の当社へ

TEL 0246 (27) 0331

